

**1 学校教育目標**

考える子（知）      心豊かな子（徳）      たくましい子（体）

**2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像**

○学校像	・学力の向上に取り組む学校	・居心地のよい学校づくりに取り組む学校	・体力向上に取り組む学校
○児童・生徒像	・考える子	・心豊かな子	・たくましい子
○教師像	・授業改善を推進する教師	・児童の可能性を引き出す教師	・子供と共に汗を流す教師

**3 学校の現状及び前年度の成果と課題**

西新井駅から北へ徒歩7分程の位置にあり、近くにはギャラクシティがある。40周年で建て替えた白を基調とした近代的・開放的で木材を使用した温かみのある教室、広い体育館は地域の誇りである。全校児童数は約500名、区内で中規模の学校である。

前年度これまで以上に組織の力を高め、全職員で統一した取り組みや指導を行ってきた。これにより特に生活指導において成果をあげることができた。各学級が落ち着いた雰囲気の中で授業を行いながら学力の向上を図ってきた。6年生が全校朝会で行う代表挨拶は、最上級生としての誇りと責任感を高め、学校の機動力となっている。学校行事では児童が活躍をする場面を作ることで、物事に前向きに取り組む児童の育成を図っている。

開かれた学校づくり協議会による土曜事業「こどもクラブ」では、様々な体験活動を通して、豊かな心の育成や健やかな体の育成につながっている。

課題は学力・体力の向上である。授業規律を整え、落ち着いた環境で学習に臨めるよう、学校全体で引き続き指導を継続していく。今後も教員集団の力を一層高めて、様々な課題解決を図っていく。

**4 重点的な取組事項**

	内 容	実施期間（年度） H:平成 R:令和				
		H30	R1	R2	R3	R4
1	学力向上アクションプラン 確かな学力の定着	○	○	○	○	○
2	豊かな心の育成	○	○	○	○	○
3	健やかな体の育成	○	○	○	○	○

## 5 令和2年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力向上アクションプラン 確かな学力の定着							
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)		実施結果 (通過率結果)		コメント・課題		達成度 ◎○△●	
授業力の向上と基礎学力の定着率向上		2月到達度確認テスト 国語 80.0 算数 80.0 令和3年度目標通過率 国語 80.0 算数 80.0		2月到達度確認テスト結果 国語 71.1% 算数 74.1% 全体 72.6% 6年英語 74.4%		2月の到達度確認テストで通過率 80%を超えたのは、2年生国語、6年生算数。全体として国語の通過率が低く、誤答分析を進めて対応を進める。学習の定着状況と具体的な取組は6(1)を参照		△	
B 目標実現に向けた取組み									
新・継	アクションプラン	対象教科 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
1 継	朝学習	全児童 国語	週3回 年45単位 時間程度 始業前15分	【指導体制】担任 【取組みのねらい】新出漢字等の言語事項の習得 【使用教材】漢字ドリル・ワーク等 漢字等の言語事項の指導を行い、読み書きの練習を継続して取りませ、習得させる。	ワークの漢字50問テスト  漢字習得強化月間結果	正答率80%以上の児童が8割以上	学習の時間は計画通り確保し、各学級で指導した。漢字習得強化月間を指定し、全校で取り組んだ。9割以上が合格。	国語科の年間指導計画に位置付け実施することで、通常の間における国語科の指導にも余裕が生まれた。	◎
2 継	補習タイム	全学年 正答率50%未満  国語・算数	1～3年 毎週月曜日放課後 4～6年 毎週木曜日放課後	【指導体制】担任・専科 【取組みのねらい】学習中の単元でのつまずきを解消 【使用教材】教科書・ドリル・プリント 授業中の終わらなかった課題、理解や習熟が不十分なところを補う。できるだけ少人数で実施し、手厚い個別指導により、下位層の底上げを図る。	ワークテスト	全員が正答率80%以上	正答率80%達成は93%	出張等で担任が不在の学級は、学年で対象者を1つの教室に集めて実施した。目標を達成できなかった児童については、今後も継続して取りませせていく。	◎
3 継	授業参観	全教師 全教科	通年  各自最低1回	指導教諭等による模範授業や他校の研究発表会に参加する。参観後、報告書等で報告させ校内で周知、情報共有を図る。	報告会	全員が1回以上  肯定的評価90%以上	新型コロナウイルス感染症拡大により中止	参観者の制限等もあったが、教師道場部員の公開授業に延べ9人参加した。	△

4 新	ICT 活用	全教科	通年	【指導体制】全教員 【取り組みのねらい】ICT機器 を活用し、分かりやすい授業を行 う。	授業観察	教員用タブレ ットを活用した授 業を毎日実施 月2回以上児童 用タブレットを 用いた授業を実 施	教員用タブレット、 児童用タブレット とも、目標を達成し た授業が行われた。	学年や教科による偏 りがある。より多く の学年や教科での活 用と内容の充実が課 題である。	◎
5 新	時数確 保	全教科	通年	今年度の修正指導計画に沿って、 各教員が確実に授業を行う。	週の指導計 画 授業観察	時数報告 95%以上の実施	一部の教科等で 95%に満たないも のがあった。	主には、音楽・図工・ 総合的な学習の時間 である。	○
6 継	校内研 修	各教科等	通年	定期的な校内研修により、指導力 向上に組織的に取り組む		年間10回以上	1月末現在で計11 回実施。	体育・プログラミング・ 道徳・外国語等の研 修も実施した。	◎

<b>重点的な取組事項－2</b>		豊かな心の育成			
<b>A 今年度の成果目標</b>	<b>達成基準</b>	<b>実施結果</b>	<b>コメント・課題</b>	<b>達成度</b>	
自己有用感を高める	大人になった時の夢や希望がある 自分のことが好き よいところがある についての肯定的評価80%以上	大人になった時の夢や希望がある86% 自分のことが好き・よいところがある 75.5% 平均80.7%	自己肯定感、自己有用感を 高めるには、日頃からの声 掛けや励ましが必要。	◎	
<b>B 目標実現に向けた取組み</b>					
<b>項目</b>	<b>達成基準</b>	<b>具体的な方策</b>	<b>実施結果</b>	<b>コメント・課題</b>	<b>達成度</b>
みそあじの徹底	みそあじを意識して実 行したという肯定的評 価、児童アンケートで85%以上	身だしなみ、掃除、挨拶、時 間を守る、の項目について、 全校統一して指導をする。	「みそあじに気を付けて生活し た」 1月の児童アンケートで、87.8%が肯定 的の回答をした。	立ち止まって挨拶ができ る児童も確実に増え、組織 としての指導が浸透して いる。	◎
特別活動の充実	学校が楽しいという肯 定的評価90%以上	係活動、委員会やクラブ活動 をできるだけ充実させる。	「学校が楽しい」 1月の児童アンケートで、95.7%が肯定 的の回答をした。	「授業が楽しい・楽しみ」 についても、89.3%が肯定 的な回答をしている。	◎

読書活動の充実	年間読書冊数、全校で3万冊以上 図書貸出冊数、全校で1万冊以上	図書館支援員、副校長補佐、スクールサポートスタッフによる、休み時間等の図書貸出の充実	年間読書冊数は1月末で、全校で29,198冊を達成。 貸出冊数は1月15日で15,380冊を達成。	昼読書の時間を設けることができなかったが、目標は達成できた。	◎
体験活動の充実	体験活動が楽しいという肯定的評価90%以上	出前授業の実施 一日自然体験教室 校外学習の実施	「体験活動が楽しい」 1月の児童アンケートで、97.7%が肯定的回答をした。	コロナ禍だからこそ設定できた出前授業もあり、有効であった。	◎
いじめのない学校	感染症等を話題にしたいじめについての児童や保護者による訴えゼロ	校長による講話 生活指導主任による指導 担任による定期的な指導	感染症等を話題にしたいじめについての児童や保護者による訴えは0件。定期的に講話・指導を実施した。	相手の気持ちに寄り添える子、他者を傷つける言動がないかを考えられる子の育成を継続する。	◎

重点的な取組事項－3		健やかな体の育成			
A 今年度の成果目標	達成基準	実施結果		コメント・課題	達成度
感染症に負けずに元気に遊び、生き生きと生活する	東京都体力調査で前年度を上回る	男子 1年5項目、2年6項目、3年4項目、4年4項目、5年8項目、6年1項目。 女子 1年5項目、2年4項目、3年5項目、4年2項目、5年3項目、6年3項目。		区平均との比較では、長座体前屈、立ち幅跳びが成果。上体起こし、20m シャトルランが課題である。	○
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
投力向上	体力調査のボール投げの平均値 男子21m、女子14m	投力向上プロジェクト実施 体育の時間、休み時間	10月実施の5年生平均値で、男子は20.4m、女子は14.5m。	学校全体で区平均を上回ったのは、男子5学年、女子3学年。全体に上昇傾向にある。	○
長なわ島根記録更新	R1 学校記録を上回る 全体で2946回	長なわ研修の実施 長なわ旬間の設定 短なわ旬間の設定	新型コロナウイルス感染症拡大により中止	短なわ旬間は設定し、取り組みを進めた。	△
食育の充実	一口目は野菜からの実施6年生の割合90% R1 残菜率を下回る	校長の講話 担任による指導 栄養士による指導 給食室からの今日の一言 給食委員会の働きかけ	具体的な方策を実施し、一口目は野菜からの実施割合は90%以上を達成した。 2月末での年間残菜率1.5%達成。	担任と栄養士の日々の働きかけが、非常に大きい。今年は、給食委員会の新聞など、新たな取り組みもあった。	◎

感染症予防	感染症等による閉鎖 <sup>セロ</sup>	あい・て・ます・かの指導と実践	校長講話で繰り返し感染症予防対策を呼び掛けた。組織として取り組みを進めた。	換気による夏場の暑さと冬場の寒さは大変厳しい。	◎
-------	-------------------------	-----------------	---------------------------------------	-------------------------	---

## 6 まとめ

(1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

ア 学力向上アクションプランについて

【課題】1・3・4・5・6年生は国語、2年生は算数の通過率が低く課題である。特に国語では、文学的文章の内容・主題の理解や心情の理解について誤答が多くみられた。

【対策】朝学習では、教科書の新出漢字の学習を中心に、年間計画に沿ってICTも活用しながら工夫して行う。定期的に家庭学習やテストに取り組みせ、習熟を図る。補習タイムでは、さかのぼり学習も積極的に取り入れ、弱点の補強に力を入れる。授業では、教科書にサイドラインを引く作業などを通して、説明文や文学的文章の内容理解のための指導を行う。

イ その他課題及び解決の方向性

タブレットを活用しての授業展開が進み、分かりやすい授業や個別最適な学びと協働的な学びに向かった取り組みの推進が図れた。残念ながら、新型コロナウイルス感染症対策のために、直接的な話し合い活動や交流活動が実施できず、日常的に工夫を強いられて効率の悪いところも多くあった。子どもたちの学力を伸ばすには、日々の授業の充実を第一に考える。今後も教材研究や研修の充実を図り、足立スタンダードに則った授業展開を一層推進する。自己肯定感や自己有用感を高めるために、学校組織としてできるだけ肯定的な言葉掛けを心掛けてきた。その結果学校全体としては「親和的なまとまりのある学級集団」が多く、安定して落ち着いた学校を作り上げることができている。引き続き、一人一人に細かく目を配り、日頃からの言葉掛けや教師の関わり方を工夫する。体力向上は引き続き課題であるので、新型コロナウイルス感染症の状況を冷静に判断し、外遊びの励行や体育研修による指導力の向上を図るように努力する。

(2) 保護者や地域へのメッセージ

令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のために多くの制約があり、これまで誰も経験したことがない状況での教育活動が展開されました。特に人と人との関わりが制限され、多くの学校行事や異学年交流、集会活動などが中止せざるを得なかったことは、誠に残念でありました。この困難を乗り越え、人と人が積極的に関わり、人に優しく手を差し伸べ、声を掛け、互いに助け合いながら共に生きていく社会を実現するために、これからも職員一同努力して参ります。

本校創立当初から伝わる「養根開花」の言葉を具現化するために、皆様に支えられながら教育活動が推進できることに深く感謝しています。今後も地域の学校を温かく応援してください。開かれた学校づくり協議会やPTA活動を通して、将来にわたり地域で活躍できる「島根っ子」を育てて参ります。お気づきの点がありましたら、いつでもご意見をお寄せいただければ幸いです。

これまでのよき伝統を引き継ぎながらも改革を推進し、新しい島根小学校を作り上げるように努力します。基礎学力の定着、豊かな心の育成、体力の向上を図るために、地域の教育力を一層取り入れ「島根っ子」の根を、太く広く深く張らせていきたいと思っております。令和3年度、創立60周年に向かい、地域・保護者・学校の三者が手を携え、伝統ある島根小学校を一層魅力ある学校としていきます。